

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2017

課題番号：24520222

研究課題名(和文) 中世歌学の享受から見た心敬の文学作品の創造と新撰菟玖波文学圏への影響に関する研究

研究課題名(英文) A Research on Shinkei's Creation in His Literary Works under The Influence of The Medieval Studies on Wakas and Its Effect on The Sphere of Shinsen-Tsukuba-Literatures.

研究代表者

伊藤 伸江 (ITO, Nobue)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：30259311

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：日本中世文学において、高い文学的達成を示した心敬の文学作品に対して、その独自性と、他者への影響力という二点を主眼として研究をすすめた。連歌作者心敬の多様な文学作品(連歌、和歌、連歌論)に対する分析では、特に百韻や句集の注釈作成により見える作品の特徴を論じ、心敬と有力連歌師との関わりの分析では、『新撰菟玖波集』編者である宗祇、兼載などへの影響を細かく考察した。

研究成果の概要(英文)：We studied on Shinkei's literary works, which had reached the height, mainly on two points: one is the originality, and the other is the effect on others. We analyzed the various literary works of Shinkei as a renga creator and discussed on characteristics that we found through annotating his hyakuins (centuries) and the other collections of rhymes. We also analyzed relations between him and the other influential renga creators, especially for Sogi and Kensai, the editors of Shinsen-Tsukuba-shu, in detail.

研究分野：日本文学、中世文学、和歌・連歌文学

キーワード：心敬 宗祇 兼載 芝草句内岩橋 新撰菟玖波集

1. 研究開始当初の背景

連歌作者心敬は、日本中世文学における卓越した文学作品を残した作家である。しかし、これまでの研究状況は、心敬の連歌論に多くの研究が集中しており、彼の和歌、連歌に関して、注釈作業はいまだ進んでおらず、網羅的な研究がなされていない段階であった。

2. 研究の目的

心敬の連歌と和歌を総合的に考察し、心敬の文学作品がどのような特質を持つものなのか、また新撰菟玖波集へと進む連歌界の状況の中、心敬の連歌がいかにそれに影響を与えたかを考究することを目的とした。そのため、心敬の和歌・連歌作品をより詳細に、かつ網羅的に分析し、それに基づいて、心敬の文学的手法を解明した。

3. 研究の方法

心敬が参加し、主導した連歌百韻の注釈、また自注が存する句集の注釈を詳細にし、その成果から、百韻、発句、付合、また和歌作品に対する心敬の意識を探った。

4. 研究成果

この研究は、心敬参加の百韻の考究と、心敬句集の考究を出発点とし、そこから、心敬の文学の特質にせまるものである。

以下、順を追ってそれぞれの考究とその成果を述べる。

(1)、まず、心敬参加百韻に関する考究では、研究対象心敬の連歌表現分析や心敬の属する文化圏の研究に必須と思われる百韻として、彼が宗匠として参加した早大図書館蔵『「撫子の」百韻』を選び、百韻全体の訳注をなした(5の論文、)。

訳注をなしていく際に問題となった連歌語彙の考察などは、学会発表を経て著作におさめた(5の学会発表、5の図書)。

この訳注から考究できる、心敬の連歌宗匠としての百韻の運営方法、百韻の進行のさせ方や、自句の挿入の仕方、式目遵守の様などについても考察を行ない、論をまとめた(5の論文)。これらの論は、句の具体的な注釈によって、宗匠心敬の手法を導き出したものである点、新しく説得力のある成果となった。

さらに、『「撫子の」百韻』は、心敬と管領細川勝元及びその家臣が同席して張行した百韻であり、この百韻の注釈によって、法華宗徒・有力武士を中心とする関東下向以前の心敬の交友関係のうち、管領細川氏との関係を調査することができ、心敬がその和歌の師、正徹の影響によって属した文化圏の概要の解明を進められた(5の図書)。

加えてこの百韻には宗祇も同座しており、両者の句作の影響関係、また相違点が指摘でき、初学期の宗祇の句風の研究にも有効であった(5の図書)。

以上のような成果を盛り込み、『正徹と心

敬』(5の図書)や、百韻という作品の総体を念頭に置いて論ずることを意識的に示した『心敬連歌 訳注と研究』(5の図書)を刊行した。

(2)、百韻の考究と同時に、心敬の個々の句作も当然重要な研究対象となる。それゆえ、心敬自身による歌・句の注を持ち、これまで内容面の研究が立ち遅れていた『芝草句内岩橋』の訳注をなすこととした(5の論文、)。

『芝草句内岩橋』は、心敬が東国下向時、兼載から疑問とされた句、歌を集めて自注で解説し与えたものである。それゆえ、(2)の研究は、東国下向の作品である『「撫子の」百韻』の訳注に加え、東国下向後の作品である『芝草句内岩橋』の訳注をなすという点でも、重要な比較研究であった。

『芝草句内岩橋』に存する句の訳注をすることにより、まず、漢詩を駆使した詠法や、新古今歌人慈円の和歌に影響を受けた対句的な句の詠法など、特に心敬独自の句の特色を明らかにしえた(5の論文)。

さらに、心敬の発句の大きな特色とされる、「青し」という語句に関して、『芝草句内岩橋』の句の配列から、特に東国での特徴と位置づけることができ、それを歌論における制詞とその使用という観点を導入して、考察した(5の論文)。

また、源氏物語の言葉を詠む心敬の発句を題材として、梗概書に多くを負う心敬の発想をとらえ、心敬の教養を考えた(5の論文)。心敬の連歌作品の発句は、当季の言葉を使用して詠むという約束事は守りながらも、眼前の光景を詠むはずの発句に、見えないもの聞こえないもの、すなわち別の季節や時間の光景を呼び込むことによって句の世界を広げようとする特徴も持つ。この論文では、心敬の源氏詞による句の創造が、一方では、そうした心敬句の特徴の一例ともなるものであると見通しを得た。

今回の研究で論文にまとめてきた心敬の連歌作品は、それぞれに早くから注目され、心敬の代表作とされた作品であり、それらに関してあらためて新見を示すことができ、心敬研究を新しく進めることができた。またこの研究の成果は、心敬、兼載、宗祇をそれぞれ主対象とした折々の講演で、研究分担者奥田が多く発表してきており(5の学会発表、)、この研究の成果を加えて連歌と連歌師をあらためて総合的・通史的に論じた『連歌史 中世日本をつないだ歌と人びと』(5の図書)も出版している。詳細な訳注をなすことを通して、作品の根源的な特徴と、作品に関わる連歌師の普遍的な役割を理論化することが可能となり、それを世に示し、世に問えたと考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 12 件)

伊藤伸江、心敬発句考-『芝草句内岩橋上』の『源氏物語』関係句-、文学語学、査読有、第 222 号、2018、pp.133-146

伊藤伸江・奥田勲、本能寺本『芝草句内岩橋上』訳注(五)、愛知県立大学文字文化財研究所紀要、査読無、第 4 号、2018、pp.59-90、

伊藤伸江・奥田勲、本能寺本『芝草句内岩橋上』訳注(四)、愛知県立大学文字文化財研究所紀要、査読無、第 3 号、2017、pp.67-91

伊藤伸江、心敬の句表現-「青し」の系譜から-、日本文学、査読有、66 巻 7 号、2017、pp.32-43

伊藤伸江・奥田勲、本能寺本『芝草句内岩橋上』訳注(三)、愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編)、査読無、第 17 号、2016、pp.49-80

伊藤伸江・奥田勲、本能寺本『芝草句内岩橋上』訳注(二)、愛知県立大学大学院国際文化研究科論集(日本文化専攻編)、査読無、第 16 号、2015、pp.41-71

伊藤伸江・奥田勲、本能寺本『芝草句内岩橋上』訳注、愛知県立大学説林、査読無、第 62 号、2014、pp.39-50、

<https://aichi-pu.repo.nii.ac.jp>

伊藤伸江・奥田勲、早大蔵『「撫子の」百韻』訳注(三)、愛知県立大学説林、査読無、第 61 号、2013、pp.51-65、

<https://aichi-pu.repo.nii.ac.jp>

伊藤伸江・奥田勲、早大蔵『「撫子の」百韻』訳注(二)、愛知県立大学大学院国際文化研究科論集、査読無、第 14 号、2013、pp. 77-98、
<https://aichi-pu.repo.nii.ac.jp>

伊藤伸江・奥田勲、早大蔵『「撫子の」百韻』訳注(一)付.同百韻調査記録及び翻刻、愛知県立大学日本文化学部論集(国語国文学科編)、査読無、第 4 号、2013、pp. 55-79、
<https://aichi-pu.repo.nii.ac.jp>

伊藤伸江、心敬と慈円和歌-その受容と変奏-、文学語学、査読有、第 207 号、2013、pp.121-134

伊藤伸江、『「撫子の」百韻』の考察(一)、愛知県立大学文字文化財研究所年報、査読無、第 6 号、2013、pp. 25-45

〔学会発表〕(計 7 件)

奥田勲、石蔵から都へ-心敬と宗祇、第 22 回心敬忌(伊勢原シティプラザ)、2018 年 5 月 4 日

奥田勲、まれびと心敬、第 21 回心敬忌(伊勢原シティプラザ)、2017 年 5 月 4 日

伊藤伸江、心敬の詩学、芭蕉祭第 70 回記念特別講演会~歌枕俳枕講座~(ハイトピア伊賀)、2016 年 10 月 11 日

奥田勲、心敬・宗祇・芭蕉-時雨への思いがたぐもの、芭蕉祭第 70 回特別記念講演会~歌枕俳枕講座~(ハイトピア伊賀)、2016 年 10 月 11 日

奥田勲、心敬の詞、心敬四百年忌記念大会

(伊勢原シティプラザ)、2013 年 5 月 4 日

奥田勲、連歌の詞-尾上宮の転生-、俳文学会東京例会(東京都江東区芭蕉記念館)、2013 年 4 月 20 日

奥田勲、猪苗代兼載-故郷と詩、兼載五百回忌記念講演会(猪苗代町体験交流会・まなびいなホール)、2012 年 11 月 20 日

〔図書〕(計 3 件)

奥田勲、勉強出版、連歌史 中世日本をつないだ歌と人びと、2017、381

伊藤伸江・奥田勲、笠間書院、心敬連歌-訳注と研究-、2015、490

伊藤伸江、笠間書院、正徹と心敬、2012、119

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ

伊藤伸江・奥田勲科研費基盤研究(c)HP
(<https://ito-okuda-kaken.jimdo.com>)

科学研究費アウトリーチ事業

有馬朗人先生公開学術講演会「西洋の詩と東洋の詩、特に日本の詩~科学と文化の交錯の先に~」(講演者有馬朗人・伊藤伸江)、愛知県立大学講堂、2017 年 7 月 5 日

有馬朗人先生公開学術講演会「西洋の詩と東洋の詩、特に日本の詩~科学と文化の交錯の先に~」講演録、愛知県立大学説林、2018、第 66 号、pp.35-73

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 伸江 (ITO, Nobue)

愛知県立大学・日本文化学部・教授

研究者番号：3 0 2 5 9 3 1 1

(2)研究分担者

奥田 勲 (OKUDA, Isao)

聖心女子大学・文学部・名誉教授

研究者番号：9 0 0 0 7 9 4 8

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()